



本年もよろしく
お願いいたします

早春の加瀬沼

厚生協会だより

2017年1月21日
第 341 号

発行
公益財団法人
宮城厚生協会
〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：平賀 秀法

無事帰る 母の祈りは 南の地
「海外派兵」

人権は 生きる過程の 認めあい
「人種差別問題等」

初光 全ての命 いくくしむ
「平和と平等」

迎春

北部診療所ケアマネージャー

佐藤志津子





年頭のごあいさつ

組織や職員一人一人が「自己変革」 に取り組むべきスタートの年

(公財)宮城厚生協会理事長 小熊 信

皆様、明けましておめでと
うございます。

今年の元旦は、穏やかな天
候で迎えられ、本年の世情も
天候と同様に平穏に推移する
ことを期待したいところです。

しかし旧年の欧米社会でみ
られた想定外のトランプ新大
統領の出現、欧州における混
乱などの不確実で不透明な社
会的動向からは、文明社会が
これまで希求してきた「共存
と融和」の理念に逆行するよ
うな「分断と排斥」という政
治的变化が見られます。

このような社会的動向を生
み出した背景に、ポピュリス
ムに象徴される「民主主義の
正当性に関わる疑義、潜在的
危険性」が指摘される一方で、
資本主義社会における究極的
な弊害の犠牲者の声が、結果
はどうであれ政治勢力の構成
に反映されたことは、「民主
主義制度が正常に作動した」
との評価も聞かれ、欧米では
民主主義に関わる本質的な議
論が行なわれています。

**我々の主体的な政治への関
わりが一層求められている**

他方、旧年中の国内政治に

眼を転じてみると、安倍政権
による「民主主義制度下にお
ける多数決原則」を悪用する
かのような政治手法を見る限
り、欧米でみられるような民
主主義に関わる根源的論議
は、国内においても「他山の
石」ではすまされなれと思わ
れます。

本年は、「憲法改悪」を争
点とした衆議院選挙が想定さ
れる局面ですが、「民主主義
の危機」が叫ばれている中で、
オバマ大統領が述べているよ
うに、「民主主義は様々な問
題を内包する未だ完全なもの
ではないが、人類が政治的課
題を平和的に解決する手法と
して唯一手にしている制度で
あり、我々はこれを醸成して
いくことに努力していくしか
ない」との言説は、我々の主
体的な政治への関わりが一層
求められているようにも思わ
れます。

**良質で平等な医療展開の
ため安定的に実践できる
経営基盤の構築がカギ**

このような不確実で不透明
な様相は、残念ながら我が法
人を取り巻く「経営的危機状

態」にも相似していると言わ
ざるを得ません。2014年
に顕在化した今般の経営危機
は、過去3年間にわたる職員
の努力にもかかわらず、改善
の兆候が見られるものの未だ
「キャッシュアウト(自己資
金の流出)状態」から脱却さ
れておらず、法人の存立自体
も危ぶまれる状態に陥らせて
います。

このことは、これまでも
断続的・周期的に惹起されて
きた経営危機に際して、経営
上の根源的な課題に対する不
十分な対応を示していること
もに、従来の対処法や現状の
あり方、日常の業務運用をそ
のまま踏襲していくだけで
は、現在の危機的状況から脱
していくことが困難であるこ
とを物語っています。

このような認識の元に今期
理事会では、①中長期的経営
改善計画、②中長期的事業計
画、③人事制度の確立という、
相互に関連性をもった3つの
基本方針を提起しました。今
期理事会の提案では、従来の
手法をそのまま踏襲せず、
これまで実践し切れてこなか

った課題への挑戦を求めてい
る点で、「違和感」をもたれ
ることが少なからずあるかも
しれません。

しかし今回の提案では、限
られた人的資源の中で各職員
の潜在的な能力や付加価値を
最大限引き出すことを目的と
し、そのためには各職員が現
状にとどまることなく、「自
己変革」を主体的に行なっ
ていくことを求めています。

そしてその結果として、
我々の本来の使命である「医
療の質を高め、良質で平等な
ことが安定的に実践していけ
るような経営基盤の構築をめ
ざさなければなりません。

•••••
本年は、組織や職員一人一
人の「自己変革」に取り組む
べきスタートの年と位置づけ
ていくとともに、我々の堅牢
な組織力と崇高な理念に確信
を持って、各職員が積極的に
提言を行ない組織改革に主体
的に関わっていくことを期待
します。



専門認定看護師のご紹介



「みんなが美味しく安全に食べることができる」ことを目標に

長町病院摂食・嚥下障害看護認定看護師 外山美由紀

摂食・嚥下障害看護認定看護師は「みんなが美味しく安全に食べることができる」ことを目標に日々活動している嚥下を専門とする看護師です。「嚥下ナース」とも呼ばれます。

嚥下障害は脳血管疾患のみが原因ではなく、実際は加齢によるもの、認知症によるものなど多岐にわたります。そのため日々現病歴や既往歴、年齢などを考慮しながらの嚥下機能の評価や食事形態の調整、食事時の姿勢の調整・水分のとりみなどの調整を行なっています。さらに、栄養管理や経管栄養、口腔ケアなども専門分野として学んでおり、専門性のあるケアを実施しています。退院先の施設スタッフやご家族に食事介助の指導も実施しています。

また多くの医療従事者に摂食嚥下を知ってもらうために、各所で実践型の講義を実施しています。摂食嚥下障害がどういふものなのか、私たちに何ができるのかを実際に体験していただき、明日からでも実践可能な知識・技術を提供しています。

摂食嚥下は全ての人に共通する分野です。入院していても在宅でも、急性期でも慢性期でも、生きている以上、「食べる」とは必ず関わってきます。一人でも多くの食べる希望を支えていくことができればと思っています。



院内だけでなく、地域にも目を向けた支援が出来るよう頑張りたい

長町病院認知症看護認定看護師 内海 史子



外来に勤務しながら、認知症相談室を月に2回開設しています。長町病院かかりつけの患者、家族を対象に、認知症の診断の有無に関わらず、認知症や介護に関する悩み、相談などを受けています。自分の物忘れを心配して訪れる方や、ご家族の認知症症状に対する対応方法の悩みなど、内容は多岐に渡ります。

また、2009年に認知症看護認定看護師の資格を取得して、すぐに認知症看護委員会を立ち上げました。看護師、介護福祉士、セラピストで構成され、主に入院患者に対する認知症ケアの質向上を目指して発足しました。年に6回の予定で毎年学習会を行い、新人職員を中心にたくさんの方々と、各病棟の認知症チームの頑張りもあり、かなり認知症ケアの質は向上していると感じています。

外来の患者さんと関わっていると、病棟での関わりの中では見えにくかった在宅での生活が良く見えます。認知症の進行と共に、他の慢性疾患の管理も困難になったり、受診する事自体を忘れてしまったり、介護保険の存在も知らずに老老介護をしていたり、多数の患者と短時間に次々と接する外来の中で、支援が必要な認知症の人と家族を見出し、必要な支援に繋げる事が重要だと感じています。病棟と外来、外来と地域との連携を強化し、院内だけでなく、地域にも目を向けた支援が出来るように頑張りたいと思います。

職員がやりがいを持ち働き続けられる職場 環境改善の取り組みを

坂総合病院看護部長 高橋美智子



明けましておめでとうございませう。昨年7月より看護部長に就任しあつたという間に新年を迎えますが、看護部長になりこれまで経験したことのない課題山積みにどう挑むか、とても大変ではあります。看護師長を中心に集団で議論し実践できていることが私にとって非常に支えとなり、困難な状況でも立ち向かえていく原動力になっています。

昨年は、急性期病院の機能を維持し、より地域医療へ貢献するために9月に一部病棟構成する診療科を組み換えました。10階病棟は緩和ケア科、糖代謝科、小児科の混合病棟となり、8階は循環器科単独病棟、4階は産科単独病棟へと変わりました。

今年度はさらにPFM (Patient flow management) システムを導入して外来と病棟そして地域へと切れ目のない看護を継続し、地域住民や、地域医療・介護施設からの要望に応えられるよう看護も充実させていきます。そして、急性期病院の質を担保するために、職員がやりがいを持って働き続けられる職場環境を改善する取り組みをして参りますので、皆様もご協力をお願いいたします。

私的なことでは、2年前からトレッキングを始め昨年は県内の山5つ制覇しました。今年は県外のお山々を制覇できるようにしたいと思っておりますが、体重の増加により膝に負担がかからない様、まずは減量しなければなりません。この難題に向け、今年こそ自分のあるべき姿(理想体重)を設定し、現状とあるべき姿との差(ギャップ)を見つけて途中挫折しないように取り組みたいと思っております。本年もよろしくお願いたします。

抱負

看護職員が楽しく生き生きと働き、 質の高いケアを提供できるように

長町病院看護部長 阿部由起子



明けましておめでとうございませう。昨年7月より長澤看護部長の後を引き継ぎ、長町病院看護部長に就任した阿部由起子です。

長町病院は、予防から急性期、リハビリ、介護、在宅まで一貫したケアを提供している病院として、地域での存在意義を明確なものにしてきました。今後の超高齢社会に向けて地域包括ケアシステムが推進されている中で、当院の果たす役割には大きな期待が寄せられていると考えます。

2017年の酉年は、9番目の干支である申(さる)と11番目の戌(いぬ)の喧嘩を仲裁するために間に言ったと言われ、「とりこむ」に通じることから商売に縁起が良いと言われているそうです。法人経営が厳しい中で必要利益を確保するために、看護部として経営に貢献できることは何かを考え、診療報酬のとりこぼしのない対応や業務改善に努めていきたいと思っております。院内に「犬猿の仲」となるような部署はありませんが、看護師が連携の要となつて多職種連携の舵とりができるような看護集団でありたいと思っております。また、患者に1番近い看護職員が楽しく生き生きと働き質の高いケアを提供できるように、看護体制や職場環境の改善に努めます。

昨年は2ヶ月間に及ぶ看護管理者研修を受講する機会もいただき、感謝申し上げます。今後は現場で様々なことを学びながら、皆様のご指導の下、看護管理者として成長していただけるよう精進して参ります。研修で学んだことを活かして、長町病院にとって「飛躍」の年となるよう努力していきます。

クジヤクの羽のようにいろいろチャレンジ できる羽ばたきの年に

古川民主病院看護部長 千坂栄美子



新年のお慶びを申し上げます。

歳を重ねるごとに「明るく謙虚で真摯に前向きに」を目標に意識しながら職務に励む自分があります。最近改めてハツと気づいたことがあります。何事にも当てはまること、勉強・知識を得る努力は惜しまずトライすることですが、その知識が「自分ができると過信しないこと、この人はできると判断するのは取り巻く人々。知識があっても評論家にならないように、私たちは人を相手に仕事をしているのだから知識を持って実践することが一番なんだということ。コミュニケーションも目線をあわせた会話ができていくかどうか、相手を認め尊重しうなずきながらの会話、当たり前なことが大事なことです。

古川民主病院も地域の要望に期待され診療所から病院へ、地域に救急医療に貢献した日々がありました。医療法の改正にあわせ急性期から慢性期へ、更に高齢者医療にシフトし、今は地域に貢献するためのポジショニングに苦慮しながら方向性を見極めていく真つ最中です。国の動きや医療を取り巻く環境、患者を診て捉える視点も大きく変化してきておりますが、いつの時代も変わらぬことは国民の怒りが政治を変えていること、そして孫子の代まで平和であってほしいこと。憲法を守り、民医連綱領に民医連看護の視点を軸に歴史を語りつぎ、次世代につなげる役割もあると感じています。

今年もよろしくお願致します。

今年

4 事業所看護部長

「看護とは何か」を確認し看護部が 団結し取り組んでいきたい

泉病院看護部長 萩原 綾子



明けましておめでとうございませう。

昨年は、母を看取り、職員のけがや病気が、ほかにも職場と自分が試されるようなことが続き、追い立てられるように毎日走りながら考える日々を過ごしました。家族の支えや、職場の支えがあつてなんとか一日一日を送ることができたと感謝しています。

さて、今年も泉病院にとっては中長期の方針を決定し、取り組んでいく1年目になります。昨年半年間、泉病院の将来を考える研修の機会を得ました。その時の議論を活かしながら「看護とは何か」を確認しつつ、病院事業計画に向けて看護部が団結して取り組んでいきたいと思っています。

それにつけても、昨年の経験から心身の健康が大切だと身に染みて感じました。3か月に1回は美術館や映画館に出かけて心を解放する機会を作りたいと思ひますし、家族と過ごす時間を大事にしたいと思っています。





思い出のまち 長崎・佐世保

坂総合クリニック診療サービス課 庄司 圭一



英語なしで受験可能な大学へ

私は大学時代を長崎で過ごしました。なぜ塩竈出身の私がわざわざ遠い遠い九州の長崎まで行ったかといいますと、センター試験の英語でコケてしまったのが原因です。コケたといいますかそれはそれは大コケでした。泣きながら英語なしで受験可能な大学を日本中で探し、やっとのことで見つけたのが長崎県立大学でした。

縁があり、長崎県立大学に進学し、長崎県佐世保市での生活が始まりました。大学ではおもしろいことに私と同じ境遇（センター試験英語失敗）の仲間が結構いて、意気投合しすぐに友達ができました。類は友を呼ぶとはまさにこのことを言うのですね。

私の好物は「牧のうどん」

佐世保には、ハウステンボス、九十九島や米軍基地があり、美味しい食べ物もたくさんありました。長崎ちゃんぽん・皿うどん・佐世保バーガー、レモンステーキ、牧のうどんなど、挙げるととんどんできます。中でも私の好物は「牧のうどん」でした。発祥は福岡なのですが、佐世保にも店舗があり、釜揚げでふっくら柔らかいポリューミーなうどんの虜



になってしまいました。値段もかけうどんが310円と安く、それに加えうどんと一緒に小さなヤカンが運ばれてきて、その中には温かいつゆが入っており、つゆのおかわりが可能なのです。

店の雰囲気も『ザ・昭和』

といった感じで、おばちゃんが佐世保弁で気さくに声をかけてくれ、いつも元気ももらっていました。



大学ではまちづくりを専攻

すっかりうどんの話になってしまいましたが、佐世保は米軍基地もあるためか他の地域からきた人をあたたかく出迎えてくれるアットホームなまちでした。大学ではまちづくりを専攻しており、町内会長さん・神社の宮司さん・公民館の館長さん・小学校の校長先生などいろいろな方面の方と関わる機会がありました。何かの度に、「今日はうちに泊まっていかなんね！」と声をかけていただき何度泊まらせていただいたことか。同時に九州は飲みニケーションの文化が濃厚で芋焼酎黒霧島は一生分飲んだと思います。

皆さんも九州に旅行に行く機会がありましたら、ぜひ佐世保を候補地の一つに選んでいただけると嬉しいです。そして、佐世保のアットホームな雰囲気と食を楽しんでください。